

World News

ロケット関連ニュース

1. Ariane 5 フライト 158 は新宇宙探査機 [Rosetta]の打上げに成功した。

Ariane 5 フライト 158 は、3月2日フランス領 Guiana の衛星打上射場から欧州宇宙機構[ESA]の Rosetta 深宇宙探査機の打上に成功した。同探査機は彗星 Churyumov-Gerasimenko との遭遇を果す為、11年のミッションを持っている。フライト 158 の Vulcain 主極低温エンジンは、午前4時17分44秒後に着火 (Guiana 現地時間) -ミッション独特の軌道に正確に投入する事に成功した。



Rosetta 打上げ Photo Ariane Space 提供
Ariane 5 Generic は 衛星打上げランチャーの ELA-3 コМПレックスから発射され Guiana の雲海に吸い込まれていった。標準打上シーケンスに従って順調に軌道投入され、Ariane 5 の EPS 上部ステージは、離昇の約 2 時間後に、弾道のフェーズに投入された。新宇宙探査機 [Rosetta] は約 14 分後に EPS 上部ステージから分離され、2014



Rosetta イメージ図 EADS Astrium 提供
年に彗星 [Churyumov-Gerasimenko] との遭遇をもたらす為、地球脱出弾道に投入された。そのミッションの一部として、Rosetta は彗星との遭遇時に搭載している探査機をその彗星表面にソフトランディングをさせる計画である。Rosetta 宇宙船は、ESA が中心となって開発された。この開発には 14 のヨーロッパの国と米国から 50 以上の契約を伴う産業チームにより製造された。主宇宙船契約者は Astrium ドイツであり、また主要下請業者は、Astrium UK (宇宙船プラットフォーム担当)、Astrium フランス (宇宙船姿勢制御装置)、および Alenia Spazio (組立、システム統合、および試験) である。フライト 158 は、Arianespace 管理の下で実行された 14 番目の商業用 Ariane 5 ミッションである。

- Ariane 2004/03/02 プレリリース 記事 -

2. Atlas ロケット、MBSat 衛星の打上に成功。Atlas による打上成功はこれで 70 回目となる。

2004 年 3 月 13 日、CAPE CANAVERAL 空軍衛星打上射場から国際衛星打上会社(ILS)の Atlas によって今朝早く、Space Systems/Loral 製造の MBSAT 衛星の打上軌道投入にせいこうした。これは、Atlas ロケットの 70 回目の連続成功になると共に、ILS と Lockheed Martin 合併会社の契約による今年度 2 回目の成功となる。

離昇は午前 12 時 40 分 EST、衛星バスは SS/L 1300 モデルで、衛星は 29 分後でロケットから分離された。MBSat は SS/L が衛星製造の主契約者となり、日本のモバイル放送株式会社[MBCO]と韓国 SK テレコムに対し MBSat を軌道投入する契約を ILS が結んだ。



Atlas A 打上げ ILS 社提供

最先端の衛星は、日本と韓国にわたって CD-品質の音声などのデジタルのマルチメディア情報サービス、MPEG-4 ビデオ、およびデータを、モバイルのユーザーに提供する。ILS AtlasIII ロケットの 5 番目のフライトで、現在サービスしている 3 タイプの Atlas ロケットのうちの 1 つである。これまでの AtlasII、III、および V ファミリーは、1993 中旬以来 100 パーセントの打上成功を達成している。

- ILS 2004.3.13 プレスリリース 記事 -

衛星関連ニュース

1. モバイル放送用専用衛星 打上げ成功

モバイル放送株式会社は、日本時間 3 月 13 日午後 2 時 41 分、米国フロリダ州ケープカナベラル空軍基地において、同社のモバイル放送用専用衛星が打上げられ、15 時 09 分にロケットからの切り離しに成功したと発表した。

同社は、本衛星を利用して、2004 年 7 月から日本全国で屋外や移動中に携帯端末等で楽しめる多チャンネル映像・音声・データ放送サービス “モバイル放送” を提供する予定でいる。モバイル放送用の専用衛星は東経 144 度の軌道位置で運用するもので、日本時間 3 月 13 日午後 2 時 41 分(現地時間 同日午前 0 時 41 分)に、米国フロリダ州ケープカナベラル空軍基地から Atlas IIIA ロケットで打上げられ、日本時間 15 時 09 分にロケットからの切り離しに成功しました。また、予定通り、南米ブラチア局、続いてオーストラリア シドニー局にて、衛星が予定通りの軌道を飛行中であることを確認いたしました。続いて

17時40分頃には北翼の太陽電池パドルが、18時25分頃には南翼の太陽電池パドルが、それぞれ予定より早く展開完了した。

今後、高度約3万6千キロの静止軌道に投入し、12mのアンテナの展開など必要な調整を行った上で、IOT（軌道上試験）を経て、4月中旬に衛星メーカーSS/L社から正式にこの衛星が引き渡される予定。衛星引渡し後は、サービス開始に向けて試験放送などの準備作業を行う。

同社の溝口哲也社長は「今回のMB Satの打ち上げに携わってくれたすべての人に感謝します。すばらしい衛星MB Satのお陰で、私たちの衛星は、最適な軌道に打ち上げられました。今回の成功により、今年7月に予定していたモバイル放送サービスの開始はスケジュールどおりに開始します。ありがとうございました。」と現地でコメントした。今回、モバイル放送用に打上げた衛星は、モバイル放送（株）と韓国の携帯電話キャリアであるSKテレコムが共同所有するものである。SKテレコムはすでに韓国国内に、モバイル放送（株）に相当するサービス会社、TUメディア社を設立しており、日韓同時サービス開始を目指している。今回の打上げ成功により、日本と韓国で、世界で初めての移動中に楽しめる衛星マルチメディア放送サービスが開始される。

モバイル放送について

モバイル放送は、自動車や屋外の移動中に楽しめる多チャンネルの衛星放送サービスである。サービス内容は、ジャンル別の音楽専用番組など音声系の番組、音楽やニュース、スポーツなどの映像番組、そのほかにデータサービスもある。衛星放送のため日本全国どこでも同じ番組を高音質・高画質で楽しめるのが特徴。1998年5月に設立され、

2004年2月末現在で合計74社が出資している。2004年7月の事業化を目指している。

-MBCO社 2004.3.13 プレスリリース 記事-

2. EUTELSAT の W3A 衛星、3月16日に Baikonur 基地から打上げを予定

EUTELSAT のために EADS Astrium によって設計された W3A 衛星は、国際エアバス輸送の Beluga に搭載され2月11日に、ツ-



ルーズを離れ、2月12日9:00 GMT に W3A 衛星 EADS Astrium 提供

Baikonur 基地に到着した。W3A は東経7°の静止軌道に打上られる。打上時重量は4250kgで、50本のKu-及びKa-Bandのトランスポンダを搭載しており、最高6チャンネルの搭載デジタル多重通信が可能である。衛星の太陽電池パドルを展開し9.6kWの衛星供給電力が得られる。衛星寿命は15年以上である。Baikonur 基地から2004年3月16日に打上られる計画である。W3A衛星はユーロスターバス E3000 シリーズの第一号機で、ビジネス通信、インターネット、およびテレビ伝送を含むサービスを提供する。衛星1機を輸送するために

Beluga を使用するの、EADS Astrium としては 2 回目になる。国際エアバス輸送は、エアバス社の子会社で Beluga のオペレーション専門会社である。

-EADS 社 2004.3.12 プレスリリース 記事-

3. Boeing は、次世代軍用衛星システムを 4 億 7200 万ドルで受注

Boeing 社チームは次世代軍用衛星システム検討に対する契約を 4 億 7200 万ドルで受注した。この契約で、合衆国国防省、NASA、および偵察局へ安全および高い能力のグローバルな通信ネットワーク確保の為の詳細技術開発を行う契約である。この契約はロサンゼルス空軍基地で空軍宇宙ミサイルシステムセンタによって発表された。契約は 2006 年まで継続され、合衆国の軍のネットワークオペレーションビジョンをサポートする技術を確立するものとなる。この契約で開発された詳細技術は軍用の衛星通信システムに提供され、2006 年に単一の製造契約者を選択の後に 2011 年から配備を計画している。変形可能な通信システム MILSATCOM スペースセグメントは、レーザー通信、次世代プロセッサ、ルータ、インターネットプロトコル、情報保証、ネットワーク管理、および他の高度なテクノロジーを、将来、従来スペース、およびグラウンドネットワークシステムと互換性のあるアーキテクチャとして組み込まれる。システムは、戦術的なユーザー、強化された空輸される知能、監視、および偵察接続性のために、通信などの新しい機能だけでなく survivable で、戦略的な通信サービス

を提供することになる。システム設計は、Boeing 衛星システム (BSS) で実施される。Boeing チームは、Raytheon、Ball Aerospace、General Dynamics、IBM、および L-3 Communications、Cisco システム、BBN テクノロジー、Hughes Network システム、Lucent テクノロジー、ハリス、EMS テクノロジー、および Alpha Informatics で構成されている。

-Boeing 社 2004.1.23 プレスリリース 記事-